



この3月、本連盟の創設者で初代理事長をお務めになり、第3代会長の代行として、また顧問として現在も様々にご支援を賜っている平田登志郎先生が御著書『我が人生の思い出～卒寿への足跡～』を上梓されました。A5判ハードカバー縦2段組アート紙210頁の同書は、1、「私の家族」に始まり15、「人生を振り返って」に終る15章だてで、巻末に平田家・家系図と自分史年表を付し、折々の写真が数多く鏤められています。前表紙カバーには、先生が卒業された北海道・三笠山村立市来知尋常高等小学校（現・三笠小学校）の鮮やかなカラー写真が載り、後表紙には、まっすぐな道を歩まれた先生を象徴するが如き十勝平野の直線道路の、これまたカラー写真があります。淡萌黄色の表紙と相俟って、自ずと手に取りわくわくしながら頁を繰りたくなる書冊であると言えます。

自分史となると、得てして力んだり感傷に終始したりするものですが、先生は抑えた語り口で、淡々と行文を進めておられます。就中、祖母・クマノばあさんやご家族の庇護のもと、今はもう無き自然の中でのびのびと育った子供時代のそれは、懐かしい映像を見ているようで、何故か涙がこぼれてくるような見事さです。岡山の御津郡石井村に生まれ田園に育った、小生の好きなあの善太と三平の坪田譲治に、勝るとも劣らぬ筆致です。また、先生は第12、13章で、最愛の奥様・登美子夫人とのなれそめや、後年難病に罹られ厳しい闘病生活を送られた夫人のことを、心底から愛情を籠めて綴っておられます。病院に居ながら長椅子でうたた寝をし、起こされ病室に駆けつけた時には既に遅く、今わの際に何も声をかけてあげられなかったというくぐり度は胸をうちます。

大正末年に生を享けられ、大戦をはさみこの平成まで、けっして楽しいことばかりではなかった中で、学問研究と理科教育、スキーとバドミントンで青春と壮年時代を過され、ある時は厳しくある時はやさしく児童・生徒を指導された先生には、多くの教え子と仲間がおられます。今に至るまでそれらの方々と交流を持っておられますが、それは先生の人徳のしからしむるところです。また、驚くべきことに、先生は近年までワールドマスターズや台湾オープン等に出場し、単・複で準優勝・優勝をしておられます。現在でも子どもたちへの指導を続けておられる先生に敬意を表しますとともに、どうか何時いつまでもお元気で幸多かれとお祈り申し上げる次第です。

一方このご本の中には、時勢や教育問題についての鋭い指摘がオブラートに包んだかたちで記されています。教え子に手をあげてしまったこと、それがその子の親にうまく伝わらなかったことへのもやもやが載っています。そこも大事なところで、本書の価値を高めているところでもあります。最近のバドマガの連載記事を拝見しますと、教職員・コーチの方々、技術指導だけではなく、人格の養成にも心を砕いておられることがわかります。バドミントンしか知らない、強ければ上手ければそれで良いということでは勿論困るわけで、とても好い傾向です。本連盟会員の皆様も、ご自身の健康に留意され、平田先生に見習い人格形成に資する指導を続け、学生・生徒達が歳月を経た後もバドミントンが好きで好きで堪らないというふうにして頂ければと存じます。それは日本のバドミントンの更なるレベルアップ、勢いの持続につながるはずです。

……実はこのご高著は、第4代の理事長として、また顧問として本連盟を支えて下さった前田耕作先生のご葬儀・告別式の席でご恵贈賜ったものです。私事で恐縮ですが、一級審判員資格取得の際、実技の試験官を務めて下さったのが前田先生でした。有難うございました。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

目 次

巻頭言	第4回全日本教育系学生選手権大会
追悼 前田耕作元理事長	平成27・28年度役員案
第53回全日本教職員バドミントン選手権大会研修会報告	表紙の人
平成26年度全日本総合選手権大会レポート	特報 高橋理事長